

108頁によれば、「からくり」は後に旋律が改められ歌詞も2節になった」とある。後出の「背くらべ」も最初1節だけであったのを、レコード吹込のため2節目が作られたということ厚自身が書いてあるわけだが「からくり」の2節目にもそういう事情があったものと推定される。この歌のレコード初吹込は、前に中山卯郎の年譜によれば「ニッポノホン15109、歌手外山国彦年月日不詳」とあり、その後昭和7年に平井英子のものがビクターから出ているが、厚の死亡が大正14年であるから、初吹込は大正13年夏ごろまでに行われたと見ることが出来る。

▽大正12年(1923)

1月、「曲水」(8-1)。小品「雪もよひ」、季題寸言の選評と選者作1章。

18日付、子供達の歌第2集「七色鉛筆」を白眉社より刊行。所収作品は「七色鉛筆」(作曲・外山国彦)、「露地の細路」(作曲小田島樹人)、「月夜の畑」(作曲・中山晋平)、「輪舞」(西班牙舞曲)の5編。

2月・「曲水」(8-2)。社友消息欄に「長頸子君月々童謡集を出版されるのでその著作に寧日無しの姿」とあり、又巻末の「ひなまつり」が収められる。

この月、山野楽器刊行の中山晋平作曲集「童謡小曲」第4集

4月・「曲水」(8-4)。小品「くらやみ」、立春句座1句。妹三千代、静岡県榛原郡萩間村鈴木家へ嫁し、夫宇太郎と大阪に住む。

5月28日付、子供達の歌第3集「背くらべ」を刊行。所収は、

「背くらべ」(作曲・中山晋平)、「向日葵」(作曲・小田島樹人)、「雀たづねて」(作曲・中山晋平)、「山は夕焼」(作曲・小田島樹人)、「早春」(独逸童謡)の5編。本集奥付に、第4集「港の燈」の近刊予告があり、その所収予定としては「港の燈」(作曲・小田島)、「お守の里」(作曲・外山)、「旅の子」(作曲・中山)、「黒い眼鏡」(作曲・外山)、「小さい蜂」(独逸童謡)となっているが、いずれも歌詞共々未見である。おそらく刊行されなかったであろう。理由として9月1日の東京大震災が考えられるが、それと断定はできない。又、第3集には「背くらべ」の歌詞第2節の成立事情が記されている。これについて、弟欣也も次のように語る。

「当時東京目黒に一緒に住んでいた。中山に二番をつくれといわれたといつて帰って来た兄は早速その夜、創作にか、った。翌朝目をさまして兄の机上をみたら、清書された二番の歌詞があった。あの歌はみんな私たち兄弟姉妹のことを歌った生活記録。」

(昭和45年3月5日朝日新聞静岡県版「歌を求めて」(3))

(なお、前記のような作詞あるいは作曲当時、歌詞が1節だけののもので、後に2節目が追加補筆されたものに「からくり」があることを、中山晋平作曲目録年譜の108頁が明らかにしている。「上記の出版楽譜(大正11年12月子供達の歌(1)を指す)には、『強声部は皆少しづつ長めに』という指定があり、旋律の二ヶ所が古い形のま、で、歌詞は一節だけである。後に旋律が改められ、歌詞も二節になった。」とある。

6月・白眉出版社より「青年愛誦曲」を刊行。曲の選定を小